出願人：山口大学　発明者：山本直樹
特願2022-139200
発明の名称：肝臓における肝線維化抑制剤、脂肪化抑制剤、および、抗炎症剤

## 利用・用途・応用分野

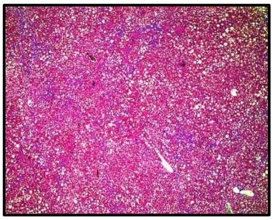
肝疾患治療、肝硬変や肝発癌の予防

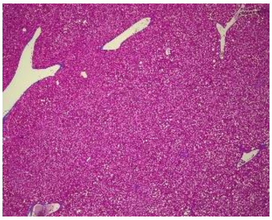
## 目的・課題

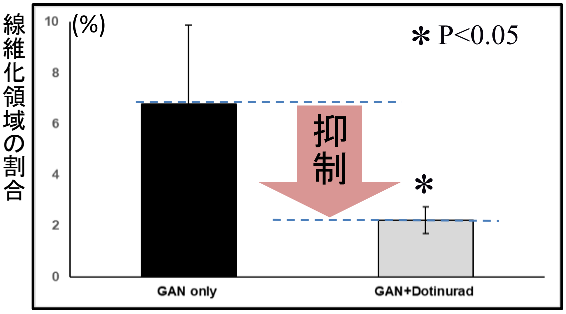
糖尿病などの代謝性疾患から、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）などに至る患者が増加しており、肝疾患は放置しておくと肝硬変から肝癌に至る危険性がある。
肝臓の炎症が慢性化すると、肝臓が線維化（肝線維化）し脂肪沈着となる。
肝線維化は肝硬変や肝細胞癌の発症と関連するため、肝線維化や脂肪沈着を効果的に抑制する治療薬の開発が求められている。肝線維化を抑制可能な肝臓の線維化抑制剤を提供することを課題とする。

## 解決ポイント

◆ドチヌラド(高尿酸血症治療剤)又は薬学上許容される塩を有効成分とする肝臓の線維化抑制剤を作製する。
◆特殊餌GAN(Gubra-Amylin NASH)の誘導による肝線維化・発癌モデルラットを用いてドチヌラドによる肝線維化の抑制効果について鋭意検討を行った。その結果、ドチヌラドが肝線維化抑制効果を有すると共に、抗炎症作用も有することも見出した。


GAN のみ


GAN+ドチヌラド



肝臓内線維化改善傾向

## 研究概要・アピールポイント

◆本発明に係るドチヌラドを含む肝臓の線維化抑制剤によれば、肝炎等により生じる肝臓の線維化を抑制することができる。
◆難治性肝硬変症や年々増加している非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の中で、未だ治療方法が確立していないNASHによる肝硬変や肝発癌に対する予防的な面での治療方法を提供することができる

山口TLOでは共同研究を希望する企業と大学との共同研究契約締結に必要な各種支援も行います。また、企業と実施許諾契約、有償譲渡契約、オプション契約（当該技術に係るノウハウ等の秘密情報の開示と共に選択権を約定するもの）など、パートナー企業が希望する契約種別に応じて相談・支援及び契約締結を行います。お気軽にお問合せ下さい。